

鹿沼東高等学校の取組

【特色】地域に関わる探究活動を模索する中、鹿沼市生涯学習課からの紹介で、特定非営利法人「かえる舎」との連携が始まった。3年間の「総合的な探究の時間」で「地域の未来を自ら拓くことのできる人材の育成」を目的に実践していこうと決定し、「幼稚園に地元の素材を使った遊具をプレゼントする。」という具体的目標を設定して活動した。

取組事例

○総合的な探究の時間

- ・「鹿沼市の伝統産業の木工」を探究の題材に、地元の産業に目を向け、感じ、考え、伝えていこうという取組が始まった。
- ・園児のために、どんな遊具があったら楽しんでもらえるか、自分たちで仮説を立てていった。
- ・最終的には、鹿沼の木工を利用したアルファベットの積み木を、生徒たちも手伝いながら作成して幼稚園に届けた。
- ・総合的な探究の時間の係の生徒たちが、どうしたらクラスメイトが迷わず作業できるか、自分たちのクラスにはどのような進行為適切かを考えながら、授業のマネジメントを行った。

○鹿沼市のオープンファクトリー

- ・毎年5月に実施していた鹿沼市のオープンファクトリーに1学年の生徒全員が参加し、地元企業のものづくり等について、実際に目にすることで地域の産業を知ることができた。

○幼稚園での保育実習

- ・家庭科の時間を利用し実施した。学年を班分けして幼稚園に行き、園児の活動の様子からどのようなことに困っているか、どんな遊具が求められているかを真剣に考えた。

○地域活動のヒントとするためのゲストトーク

- ・かえる舎の協力で、栃木県だけでなく山梨県でも活動している実業家の方たちによるゲストトークを実践した。
- ・仏像等の修繕を行う職人や伝統料理のしもつかれ調理者、何代も続く老舗味噌屋、新たな介護のあり方を模索する福祉事業者等、多くの人々の「仕事のあり方」についての考え方を学ぶことができた。

地域活動による効果・成果

生徒の変容

- 生徒たちに目的を意識させしっかりと役割を与えることで、自分たちで考えて行動することができた。
- 伝統産業の継承や活性化に関わる人々と接することをとおして、「世の中に貢献すること」や「活動に価値を見出すこと」について、生徒なりに感じる事ができた。

学校への効果

- 地域での活動は生の体験にあふれ、現場ならではの情報と出会うことができた。

地域活動がうまくいっている要因

- 行政や地域との連携体制を構築していたことにより、新たな情報を得ることができ、多様な地域活動の実践につながっている。
- 鹿沼市をとおすことで、外部団体との連携がスムーズに進んでいる。

活動しやすい環境整備のポイント



- ・学校の中で核となる地域連携教員等が地域活動を計画立案し、各教員に伝えることで、地域活動の趣旨を教員が理解して、互いに協力し合えるようになり、より効果的な地域活動につながる。
- ・市役所等行政との連携を密にすることにより、多様な地域活動につながる。
- ・地域活動の中から芽生える自主性や想像力(創造力)は、与えられた課題ではなかなか実感できないことを職員全体で理解する。
- ・「関心・意識」を「活動参加」につなぐために「とにかくやってみる」ことも大切である。